

同志社大学

2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2009年 3月 19日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部	准教授	中 川 明 才
研 究 題 目	ドイツ観念論の根本問題としてのニヒリズムの究明	
研 究 成 果 の 概 要	<p>2009年度の研究では、ドイツ近世哲学におけるニヒリズムの展開を論じるために、フィヒテ知識学を再検討した。その主な理由は、その時期のニヒリズム批判は基本的に観念論批判であり、主としてフィヒテの超越論的観念論に向けられたものであったからである。そこでまず第一に、フィヒテのイェーナ期の知識学の体系構想とその諸原理を分析することによって、超越論的観念論におけるニヒリズムの危険性を検証した。その結果、ニヒリズムの嫌疑は、単なる認識能力とみなされる理性の運動のうち、人間の個性性が解消される点に向けられることを確認した上で、人間の真の個性性は理性に従った人間的自我の自己形成および世界形成によってのみ実現されること、その実現は「精神界の総合」という哲学知を介した自我と世界の多面的な総合によること、またその総合をもって完成するフィヒテのイェーナ期知識学は人間の現実的生とその認識（としての観念論）との二重性を究明する超越論哲学として、同時代における熱狂主義や自然主義、精神主義といった、ニヒリズムに帰結する種々の独断論に対する有効な回避方法であることを解明した。</p> <p>研究成果としては、2009年10月にベルギー・ブリュッセルの王立科学アカデミーで開催された 7ter Kongress der Internationalen Fichte-Gesellschaft にて、Die Synthesis der Geisterwelt als Vollendung der Jenaer Wissenschaftslehre という題で口頭発表を行った。</p>	